



# 小児がん中央機関事業の概要

## 国立成育医療研究センターの取り組み

国立成育医療研究センター 小児がんセンター長 松本公一

2021.3.9 アドバイザリーボード

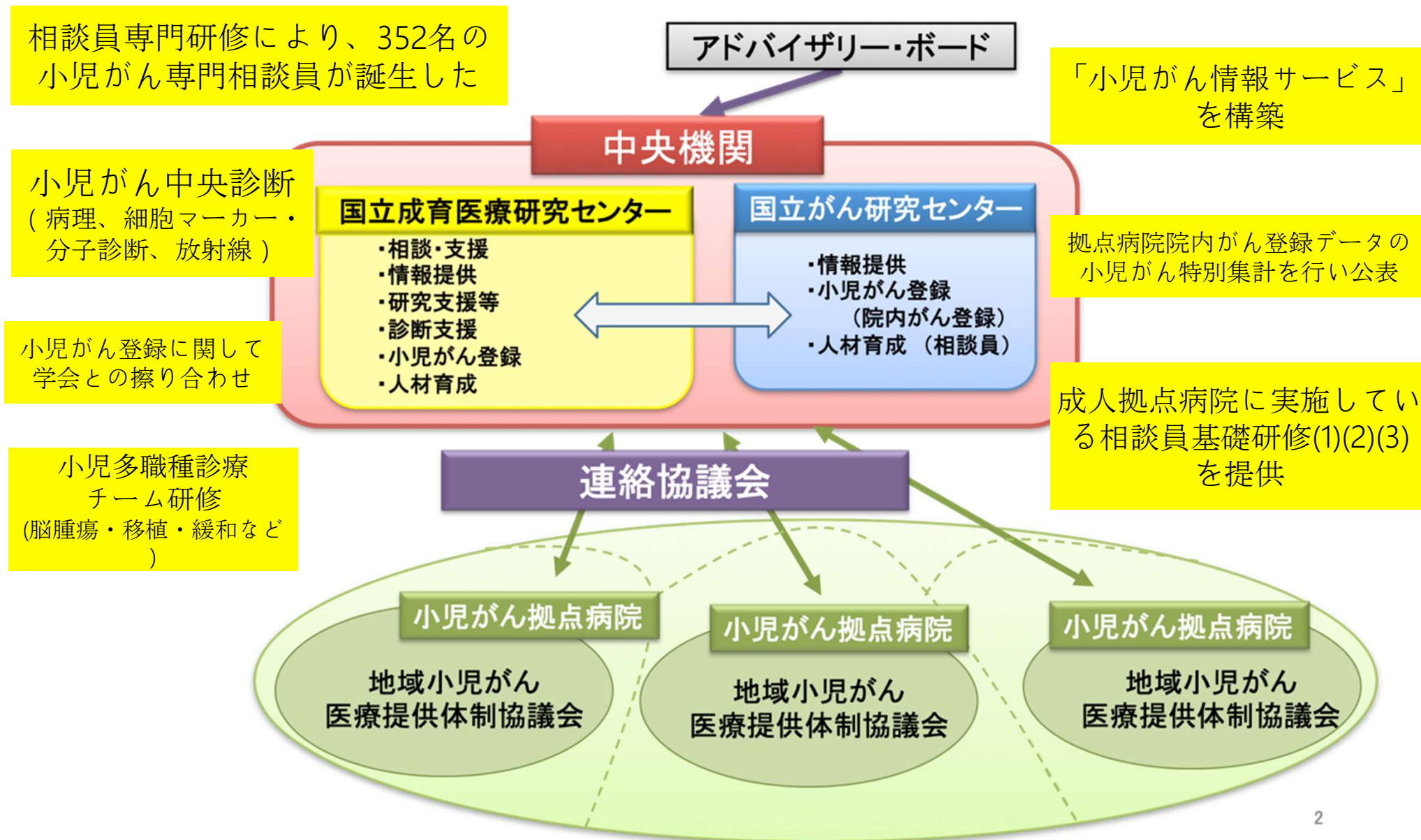
# 小児がん中央機関の役割

H24年9月7日(R1年8月6日最終改正)厚生労働省健康局長通知

- (1)小児がん及びAYA世代で発症するがんに関する相談支援の向上に関する体制整備を行うこと。また、小児がん患者・経験者の発達段階に応じた長期的な支援のあり方について検討すること。
- (2)小児がん及びAYA世代で発症するがんに関する情報を収集し、広く国民に提供すること。
- (3)全国の小児がんに関する臨床試験の支援を行うこと。
- (4)拠点病院、小児がん連携病院等に対する診断、治療などの診療支援を行うこと。
- (5)小児がん診療に携わる者の育成に関する国内の体制整備を行うこと。
- (6)小児がんの登録の体制の整備を行うこと。
- (7)(1)から(6)の業務にあたっては、患者、家族及び外部有職者等による検討を踏まえて行うこと。

# 小児がん中央機関

厚生労働大臣が指定する小児がん中央機関は拠点病院を牽引し、全国の小児がん医療の質を向上させるため、以下の役割を担うものとする。



# 情報公開解析

# 小児がん拠点病院 情報公開

国立成育医療研究センターについて

トップ > 国立成育医療研究センターについて > 主な取り組み > 小児がんセンター（小児がん拠点病院・中央機関） > 全国の小児がん診療施設の情報

## 全国の小児がん診療施設の情報

はじめに

この度、小児がん診療の質の向上と小児がん患者さんへの適切な医療の提供へつなげるため、各施設の連携により小児がん診療施設に関する情報を掲載することとなりました。

公開されている情報については下記の説明をよくお読みいただき、ご不明な点がございましたら下記までご連絡ください。

**妊娠と妻情報センター**

妊娠・授乳中の就業に関する情報機関です。専門の医師・薬剤師が、あなたのご相談に応じます。

**子どもの心の診療ネットワーク事業**

拠点病院を中心に、地域と連携して子どもたちの心のケアを行っています。

**エコチル調査メディカルサポートセンター**

国産では大規模な疫学調査「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」を実施しています。

**小児慢性特定疾病**

「小児慢性特定疾病情報センター」の構築、情報発信を行い、小児慢性特定疾病患者等の治療・療養生活の改善等に寄与することを目的としています。

**小児がんセンター（小児がん拠点病院・中央機関）**

国立成育医療研究センターは、小児がんセンターを中心として、日本の小児がん診療をより良いものにするべく努力しております。

**臨床研究品質確保体制整備事業**

小児がんネットワークの中核機関として積極的に臨床研究を実施し、また支援できる体制を構築するため、体制整備、スタッフの教育・研修などを実施しています。

成育HP

一覧の施設名をクリックすると、その施設の情報公開のPDFファイルが開きます。（全2ページです）  
施設一覧の★マークは小児がん拠点病院に指定されている施設です。

スマートフォン等で地図が表示されない場合は、下記のリンクよりご覧ください。

- ▶ 北海道
- ▶ 東北
- ▶ 関東甲信越
- ▶ 東海・北陸
- ▶ 近畿
- ▶ 中国・四国
- ▶ 九州・沖縄

がん情報サービス ganjoho.jp 病院を探す

「病院を探す」の使い方 お問い合わせ 検索

がん診療連携拠点病院 がん相談支援センター 小児がん拠点病院 緩和ケア病棟のある病院 希少がん診療に特化した病院

TOP > 小児がん拠点病院を探す

## 小児がん拠点病院を探す

更新日：2018/09/27 掲載日：2013/03/29

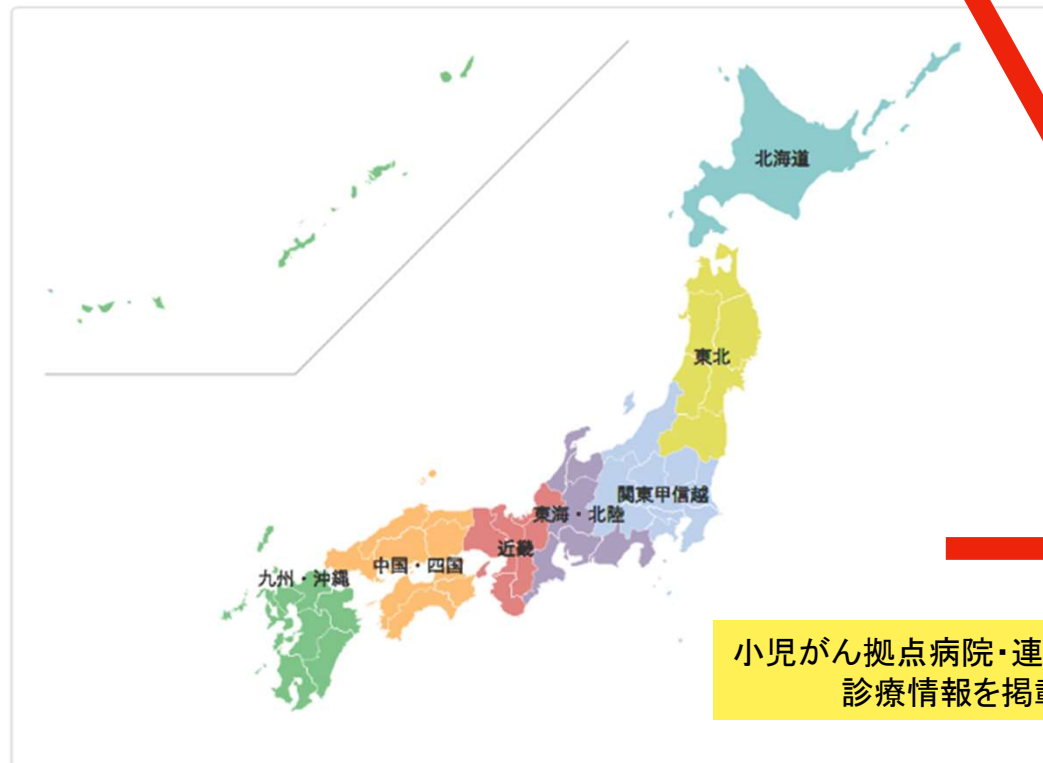
国が指定した、全国に15施設ある小児がん拠点病院の情報を記載しています。

掲載している情報は、2017年10月に厚生労働省に提出された「新規指定・指定更新推薦書」または「現状報告書」をもとに作成しております。各病院のご協力を得て、随時、情報を更新しておりますが、状況と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

国立がん研究センターと共に、国に「小児がん中央機関」として指定されている国立成育医療研究センターでも、小児がん診療施設に関する情報を公開しています（2017年1月1日時点の情報）。

国立成育医療研究センター 小児がんセンター [全国の小児がん診療施設の情報](#)

国がんHP



小児がん拠点病院・連携病院の診療情報を掲載

診療実績（初発・再発別） （再発例は再発で紹介された症例のみ）	2017			2016			2015		
	初発	再発	合計	初発	再発	合計	初発	再発	合計
造血器腫瘍	46	1~3	48	41	1~3	44	44	1~3	46
急性リンパ性白血病	11	1~3	12	15	1~3	16	12	1~3	13
急性骨髄性白血病	7~9	0	7~9	4~6	1~3	4~6	4~6	0	4~6
まれな白血病	1~3	0	1~3	0	0	0	0	0	0
MDS/MPDのうちCML	1~3	0	1~3	1~3	0	1~3	0	0	0
MDS/MPDのうちCMLを除く	0	0	0	4~6	0	4~6	4~6	0	4~6
非ホジキンリンパ腫	4~6	1~3	7~9	4~6	1~3	4~6	4~6	0	4~6
ホジキンリンパ腫	0	0	0	1~3	0	1~3	1~3	0	1~3
その他のリンパ増殖性疾患	1~3	0	1~3	0	0	0	1~3	0	1~3
組織球症（HLH）	1~3	0	1~3	4~6	0	4~6	1~3	0	1~3
組織球症（LCH）	4~6	0	4~6	1~3	0	1~3	4~6	1~3	4~6
その他の組織球症	4~6	0	4~6	1~3	0	1~3	1~3	0	1~3
その他の造血器腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Down症TAM登録	7~9	0	7~9	1~3	0	1~3	1~3	0	1~3
固形腫瘍	104	1~3	106	67	4~6	72	58	1~3	60
神経芽腫群	11	0	11	7~9	1~3	10	4~6	0	4~6
網膜芽腫	11	0	11	7~9	1~3	10	7~9	0	7~9
腎腫瘍	4~6	0	4~6	1~3	0	1~3	1~3	0	1~3
肝腫瘍	4~6	0	4~6	7~9	0	7~9	7~9	0	7~9
骨腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0
軟部腫瘍	4~6	0	4~6	4~6	0	4~6	1~3	0	1~3
中枢神経腫瘍（脳・脊髄病変以外）	4~6	0	4~6	4~6	1~3	4~6	1~3	0	1~3
脳脊髄腫瘍	59	1~3	60	26	1~3	27	27	1~3	28
その他の固形腫瘍	1~3	1~3	1~3	4~6	0	4~6	1~3	1~3	1~3
その他の固形腫瘍（具体名）	褐色細胞腫 大腸癌			乳癌 膵臓癌 1 1			悪性不明肉 ブドウ腫瘍	膵臓癌	

※再発症例は、対象年において他施設から紹介された再発がんの症例です（自施設での再発症例は含みません）。

## ブロック別情報公開提出状況

地域	2019				2018	2019
	拠点病院	連携病院	その他	施設数合計	対象施設数	未提出
北海道	1	15	0	16	6	0
東北	1	9	0	10	10	0
関東	4	41	2	47	41	1
東海北陸	3	17	0	20	20	0
近畿	4	32	1	37	30	0
中四国	1	16	0	17	17	0
九州・沖縄	1	16	0	17	19	0
合計	15	146	3	164	143	1

2021.1.14現在

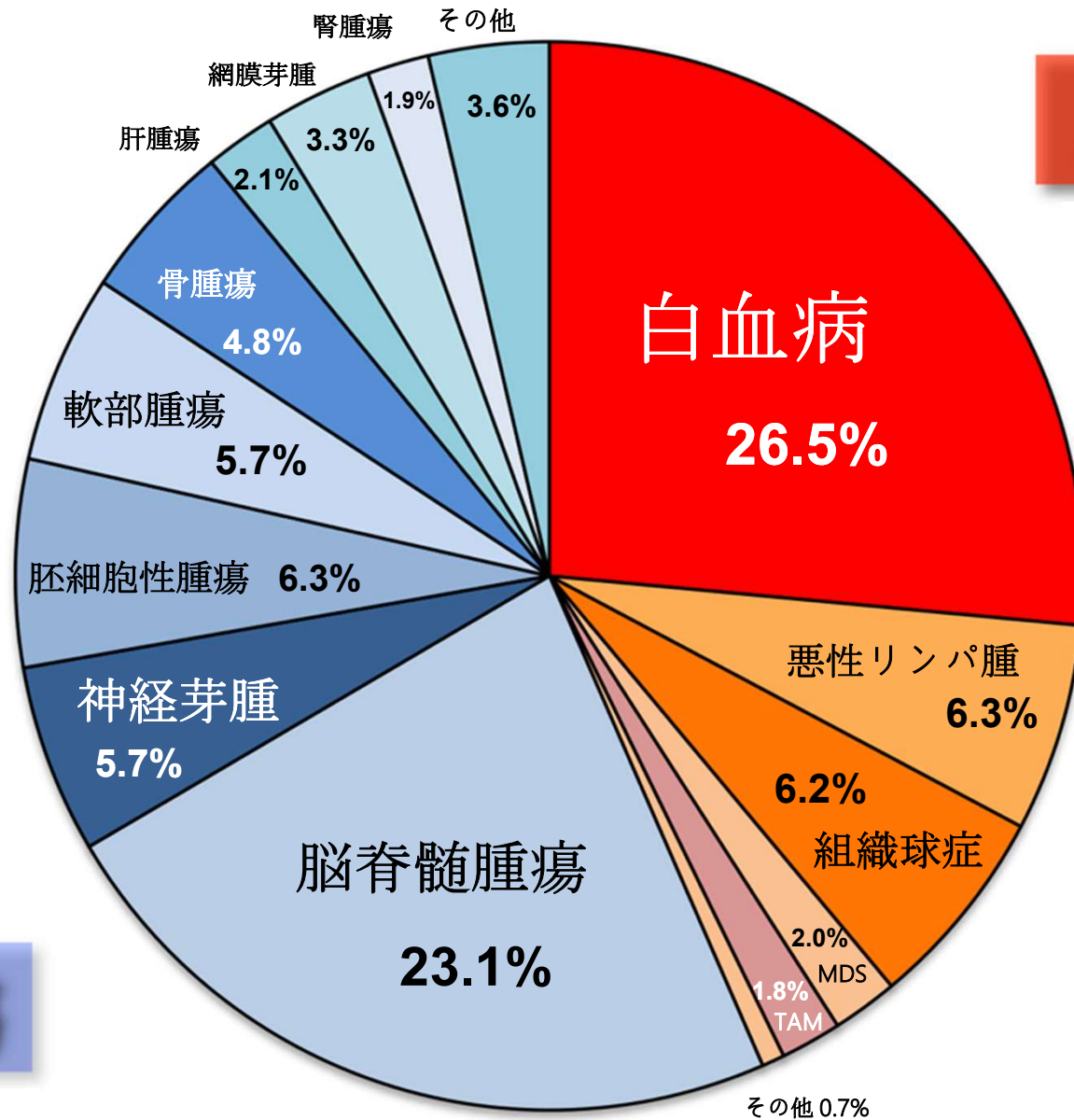
\* 岐阜市民病院は、東海北陸・近畿 2ブロックにて連携しているが、東海北陸ブロックにて計上



# 情報公開 2017-19年集計

## 血液腫瘍

n=1374/年

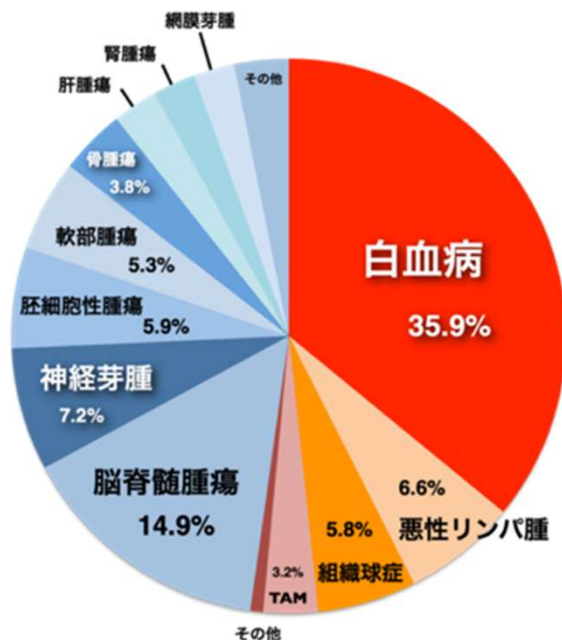


## 固形腫瘍

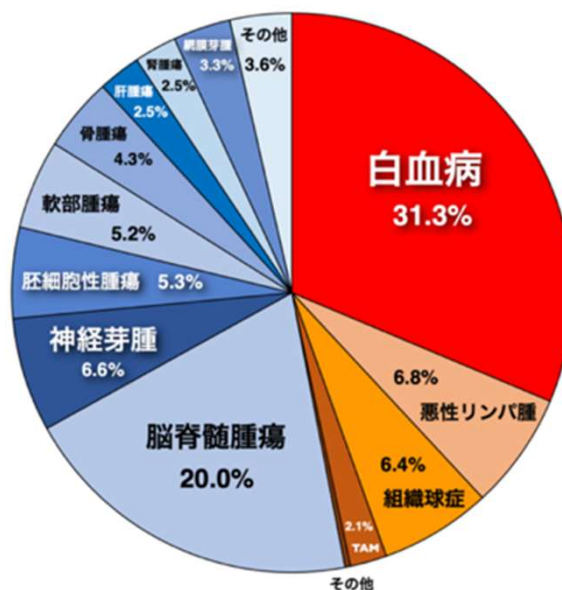
n=1787/年

# 小児がん拠点病院情報公開 集計の推移

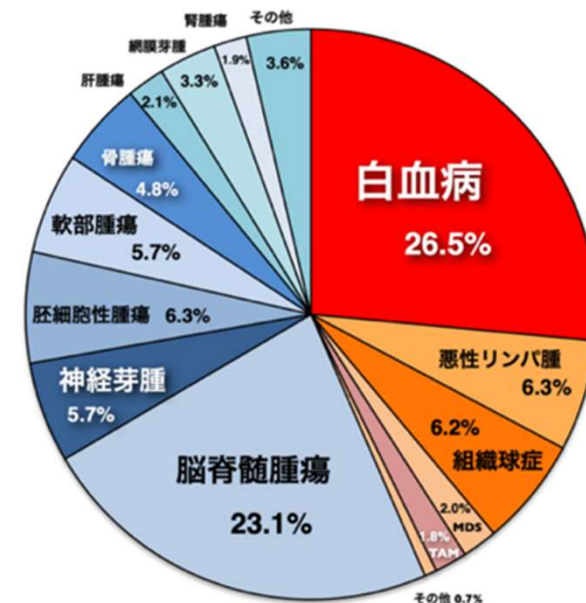
2013-15



2015-17



2017-19



日本小児血液・がん学会 疾患登録

血液腫瘍 1082例  
固形腫瘍 990例

239施設

小児がん拠点病院情報公開

血液腫瘍 1537例  
固形腫瘍 1360例

150施設

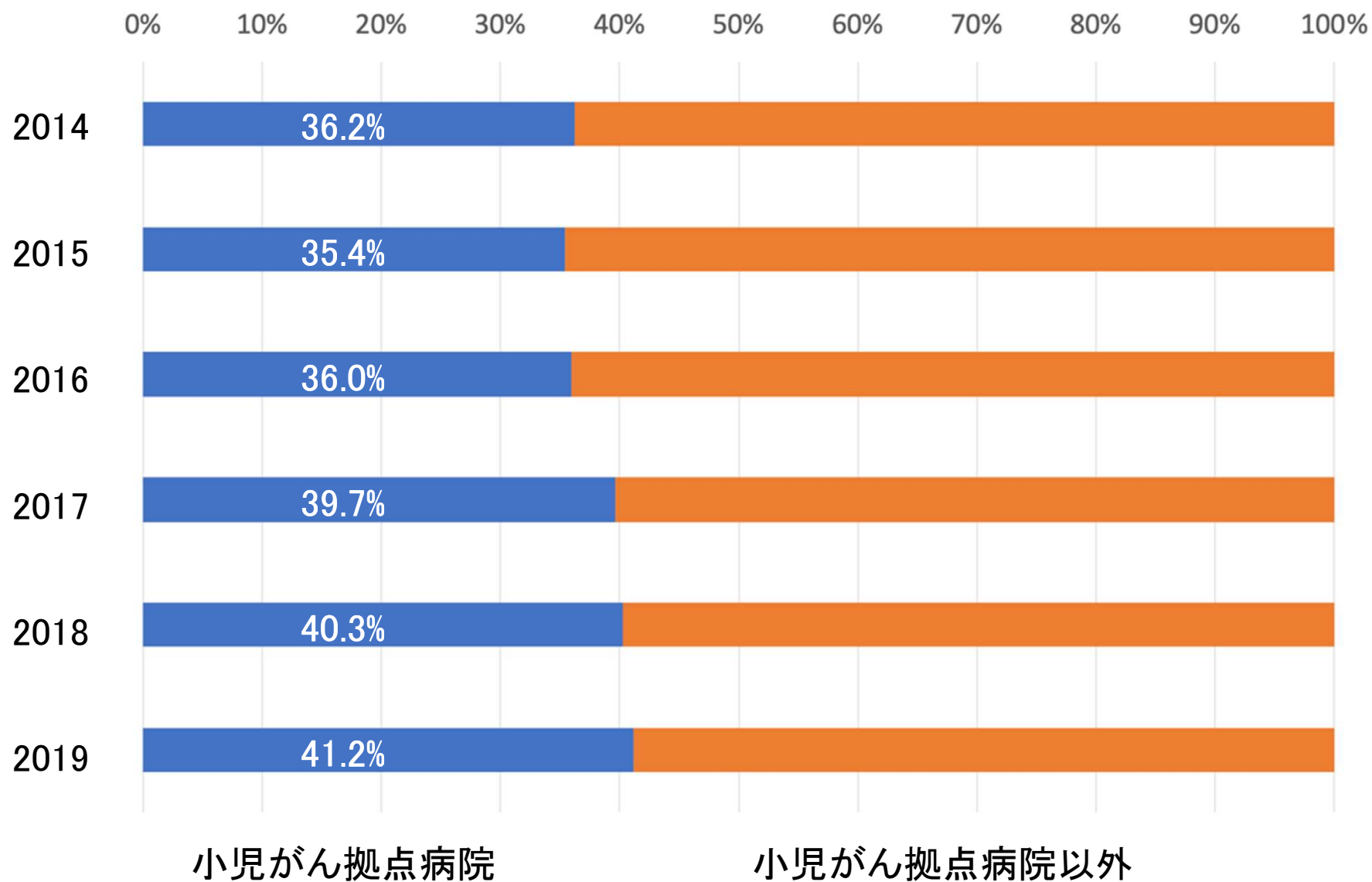
血液腫瘍 1374例  
固形腫瘍 1787例

164施設

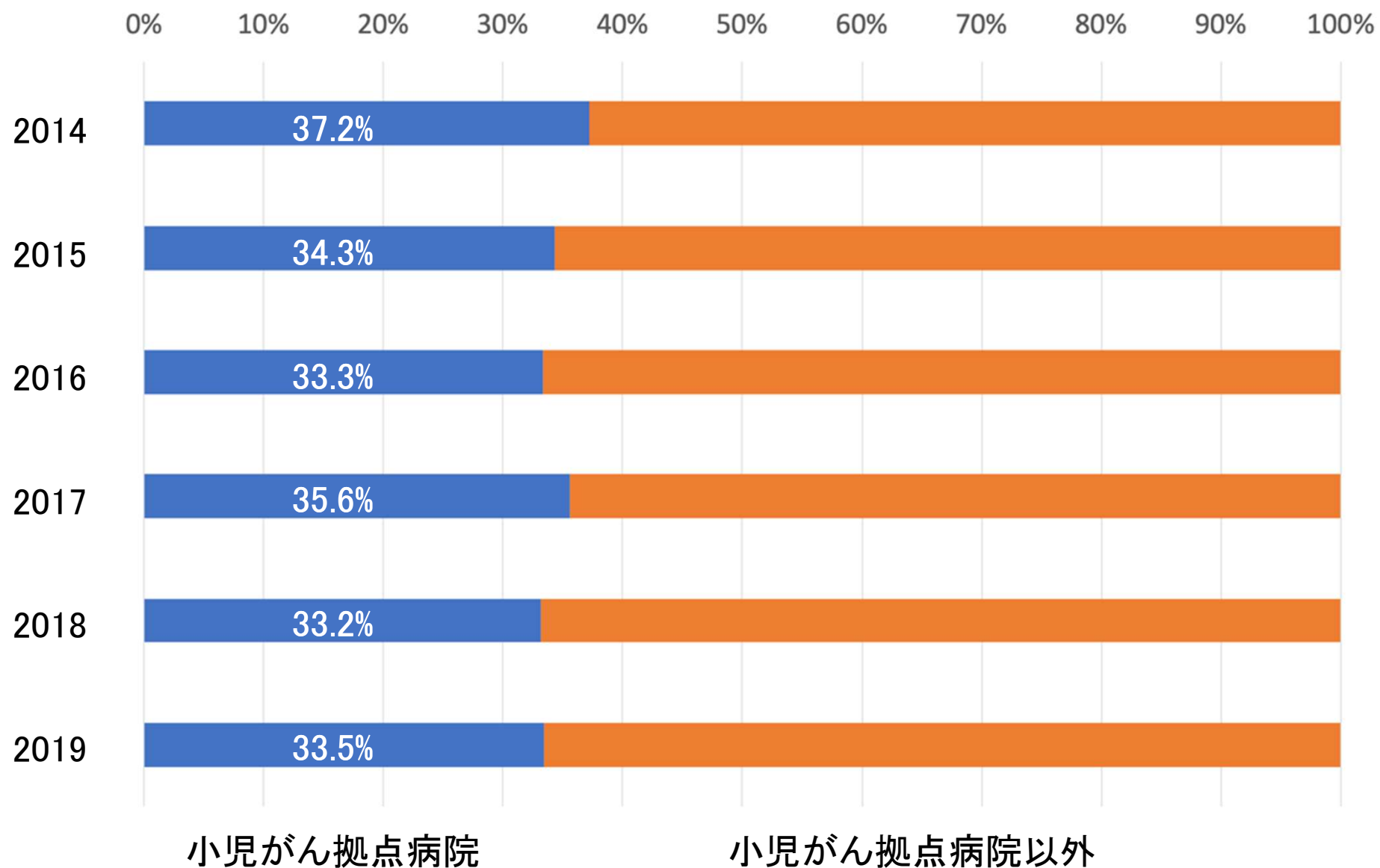
脳脊髄腫瘍の捕捉率が上昇している



# 小児がん入院のべ数からみた集約化(全国)



# 小児がん患者入院のべ日数からみた集約化(全国)



国立成育医療研究センター  
小児がんセンター

# 国立成育医療研究センター 小児がんセンター

## Staff of Children's Cancer Center in NCCHD



**Kimikazu Matsumoto**  
Head, Children's Cancer Center



**Tomizawa D.**  
Leukemia/ Lymphoma



**Kato M.**  
Stem Cell Transplant and Cellular Therapy



**Terashima K.**  
Brain Tumor



**Ishiguro A.**  
Hematology



小児がんセンターは、わが国における小児がん診療のモデルとなるように、全ての小児がん患者に対して世界標準かつ優しく温かい医療を提供するとともに、臨床研究の推進、新規治療の開発、長期フォローアップ体制の確立などを通じて、わが国の小児がん診療をリードすることを目標としています。

小児がんセンター長



**余谷暢之**  
がん緩和ケア科診療部長



**出口隆生**  
小児がん免疫診断科診療部長



**瀧本哲也**  
小児がんデータ管理科  
診療部長

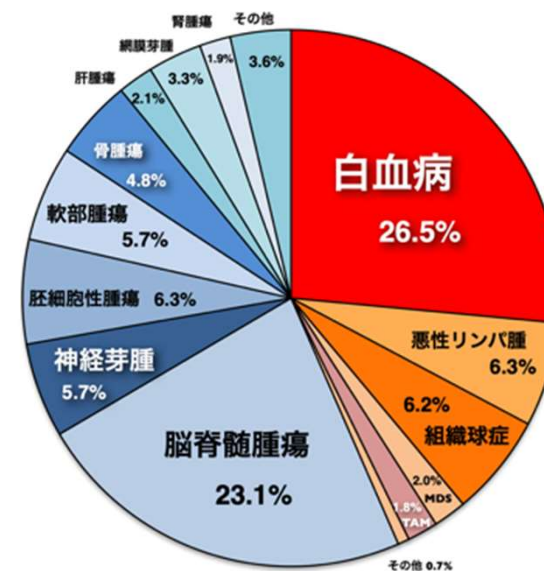
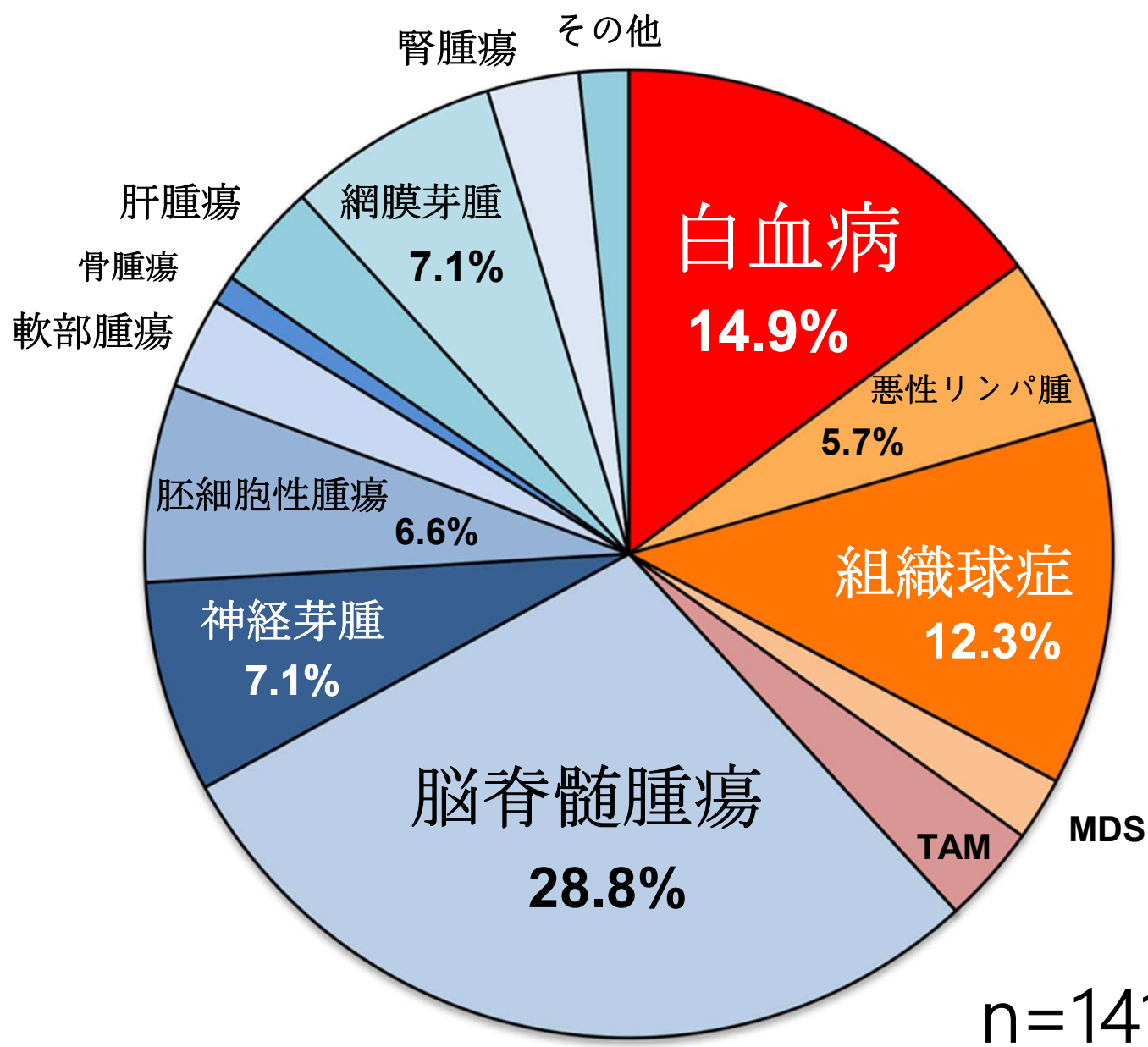


**坂口大俊**  
移植・細胞治療科  
診療部長



**米田光宏**  
腫瘍外科診療部長

# 国立成育医療研究センター 2017-19年新患

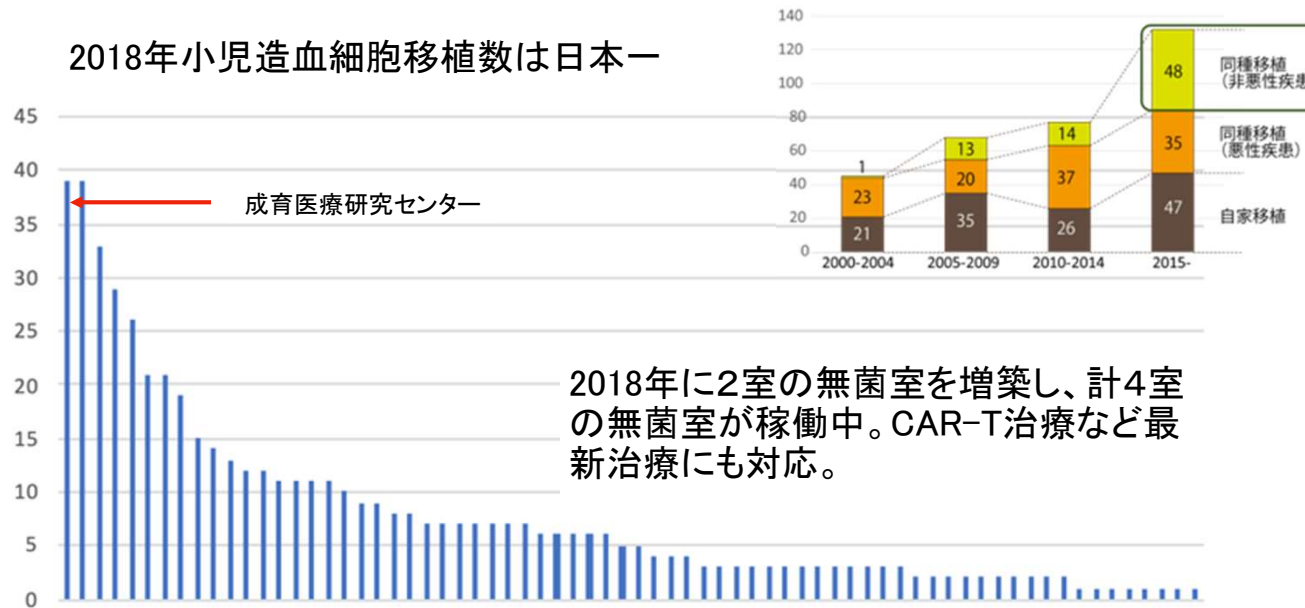


全国データ  
(情報公開資料より)



# 名実ともに小児がん医療のトップとなる

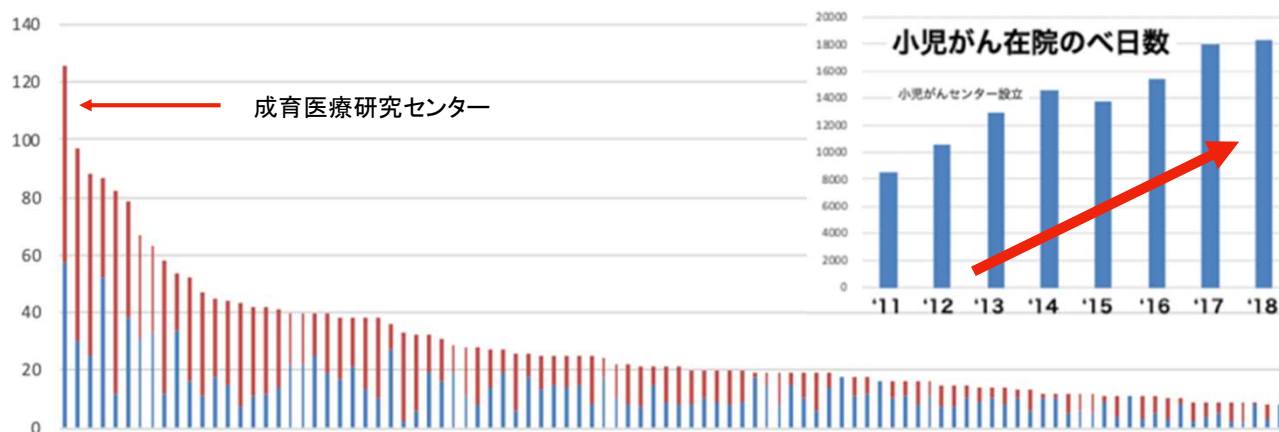
## 2018年小児造血細胞移植数は日本一



2018年に2室の無菌室を増築し、計4室の無菌室が稼働中。CAR-T治療など最新治療にも対応。



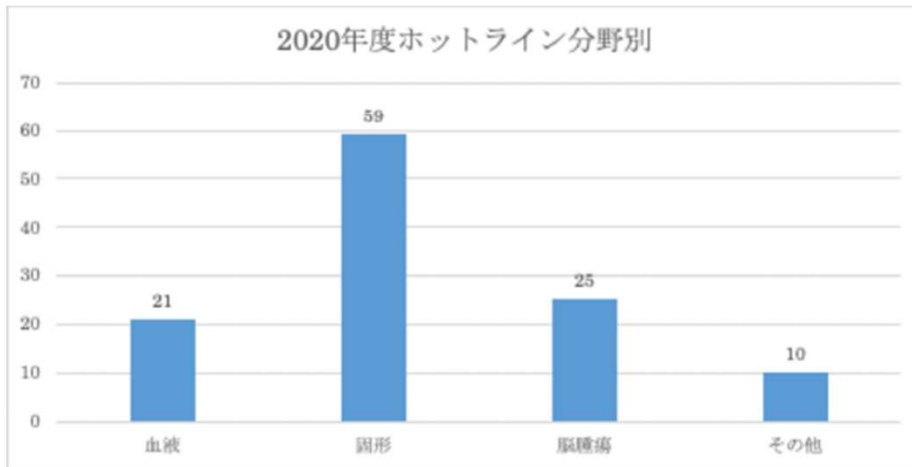
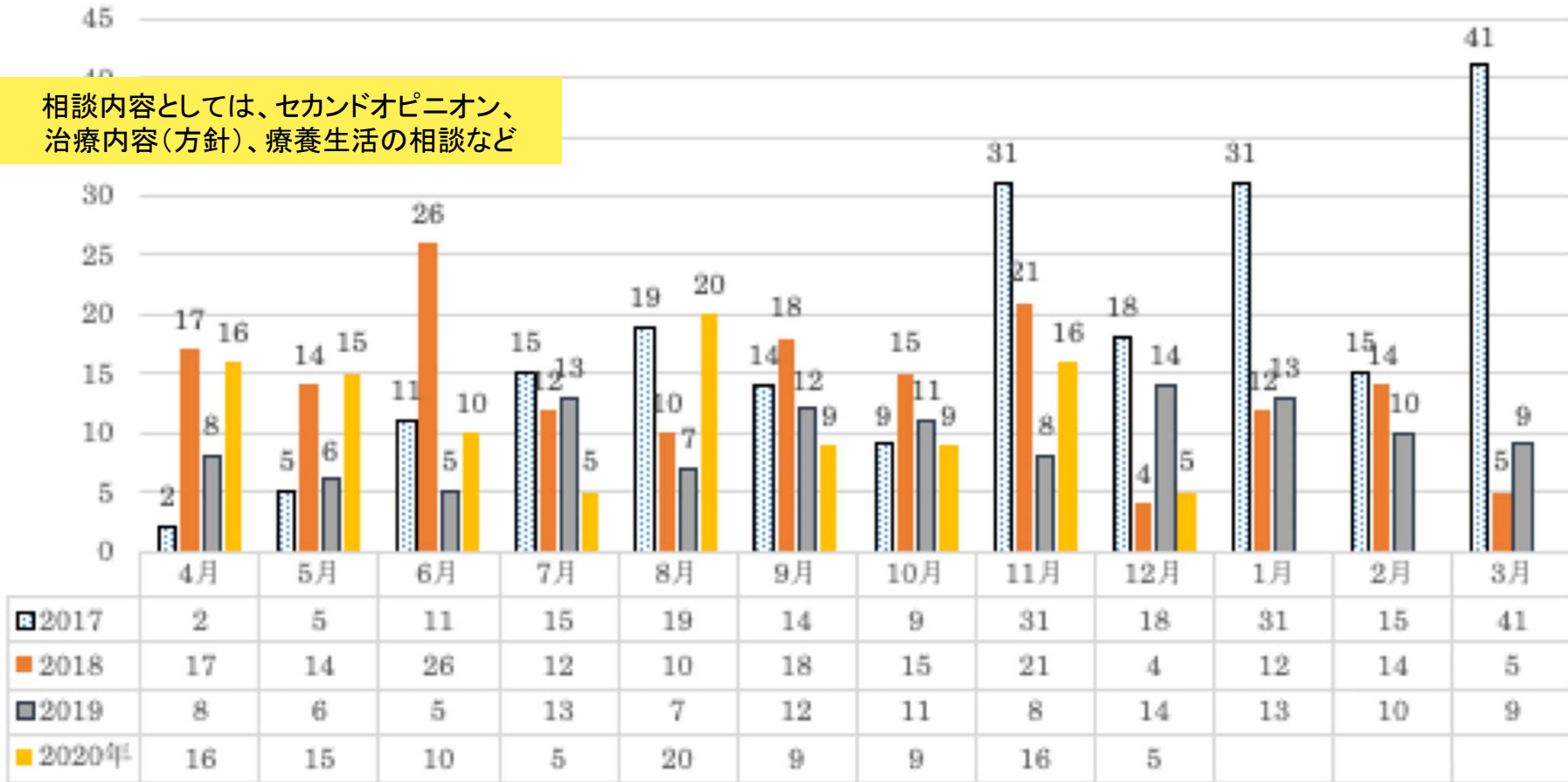
## 2018年小児がん新規診断数は日本一



小児がんホットライン

# 相談件数2017年度～2020年度

相談内容としては、セカンドオピニオン、治療内容(方針)、療養生活の相談など



国立成育医療研究センター 小児がんセンター

## 小児がん医療相談 ホットライン

診断・治療に関するご相談を随時受け付けています

# 03-5494-8159

相談無料 平日10:00～16:00  
※通話料のみがかかります

子どもが小児がんと診断された。診断や治療について詳しく知りたい。  
主治医に説明してもらったが、内容が難しく十分に理解できない。  
いま受けている治療が最適なかどうか知りたい。専門の医師の意見を聞きたい。  
過去に小児がんの治療を受けたが、進学を契機に通院が途絶えてしまった。どこにかかれば良いのか？

小児がん ホットライン 検索

# 小児がん中央機関の役割についての課題

# 小児がん中央機関の役割

H24年9月7日(R1年8月6日最終改正)厚生労働省健康局長通知

- (1)小児がん及びAYA世代で発症するがんに関する相談支援の向上に関する体制整備を行うこと。また、小児がん患者・経験者の発達段階に応じた長期的な支援のあり方について検討すること。
- (2)小児がん及びAYA世代で発症するがんに関する情報を収集し、広く国民に提供すること。
- (3)全国の小児がんに関する臨床試験の支援を行うこと。
- (4)拠点病院、小児がん連携病院等に対する診断、治療などの診療支援を行うこと。
- (5)小児がん診療に携わる者の育成に関する国内の体制整備を行うこと。
- (6)小児がんの登録の体制の整備を行うこと。
- (7)(1)から(6)の業務にあたっては、患者、家族及び外部有職者等による検討を踏まえて行うこと。



# 厚生労働省委託事業

## 小児・AYA世代のがんの 長期フォローアップ体制整備事業



Lifetime Care and Support for Child, Adolescent and Young Adult Cancer Survivors

### e-Learningの講義内容

No	講義内容
1	小児がん・AYA世代がんの長期フォローアップ総論
2	晩期合併症各論1（治療別合併症/臓器別合併症）
3	晩期合併症各論2（認知機能/心理/社会/家族の心理）
4	健康管理・がん検診
5	移行期支援
6	小児がん・AYA世代がん治療と男性の妊孕性、妊孕性温存
7	小児がん・AYA世代がん治療と女性の妊孕性、妊孕性温存

長期フォローアップは、依然として診療として定着していないことが問題

2021年度も同様の開催予定

### LCAS アドバンス研修(2021.3.13 WEB開催)

開始	終了	時間	内容
13:00	13:05	5分	開会あいさつ
13:05	13:20	15分	講義1(文薬剤師) 成育事例+トランジションステップ
13:20	13:35	15分	講義2(こころの診療部:田中先生) 就労関連
13:35	13:40	5分	質疑応答
13:40	13:45	5分	事例① AML
13:45	13:50	5分	事例② RMS
13:50	13:55	5分	事例③ CNS-PNET
13:55	14:00	5分	GWオリエンテーション
14:00	14:10	10分	休憩(画面共有・ブレイクアウト等の時間調整含む)
14:10	15:00	50分	GW(アイズブレイク5分程度含む)
15:00	15:10	10分	休憩
15:10	15:40	30分	GW発表(1グループ5分)
15:40	15:55	15分	質疑応答・ディスカッション
15:55	16:00	5分	まとめ・アンケート

#### 開催にあたって

小児・AYA世代(思春期・若年成人)のがんの治療成績は向上していますが、治療終了後に出現するさまざまな問題については医療者の間でさえ、まだ十分な理解が得られていません。このたび、小児・AYA世代のがんの長期フォローアップと小児から成人への移行期医療の重要性を、医師・看護師および関係する多職種の方々に認識していただくために、2017年度から継続している厚生労働省の委託事業の一環として研修会を開催いたします。コロナ禍でWEB開催が主となりますが、皆様のご参加をお待ちしております。

**WEB開催**  
(Zoomミーティング)

#### 第1回 広島会場 (WEB開催)

2020年 **9月15日(火)** ~ **16日(水)** 両日もとも 17:30~19:45(予定)

#### 第2回 京都会場 (WEB開催)

2020年 **11月7日(土)** 10:00~15:00(予定)

#### 第3回 東京会場

2021年 **1月24日(日)**  
ないし **2月28日(日)**

開催形式・日時を含め  
**検討中**



# 欧米では 大規模なWebベースのサポートシステムがある



Poplack, D. G. et al. Nat. Rev. Clin. Oncol. 2014, 740–750



The Survivorship Passport (SurPass)

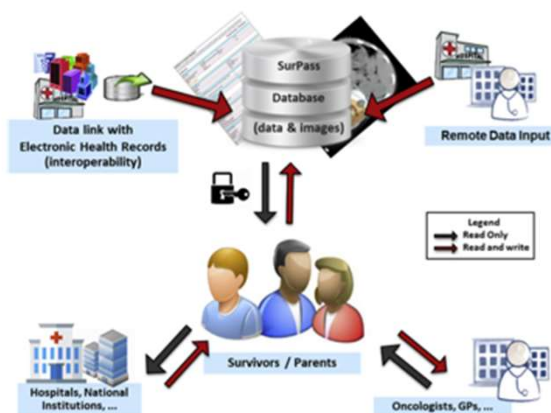


Fig. 3. Survivorship Passport data flow and access.



Haupt R, et al. Eur J Cancer. 2018 Oct;102:69-81.



統計システムも充実

**SEER IS AN AUTHORITATIVE SOURCE FOR CANCER STATISTICS IN THE UNITED STATES.**

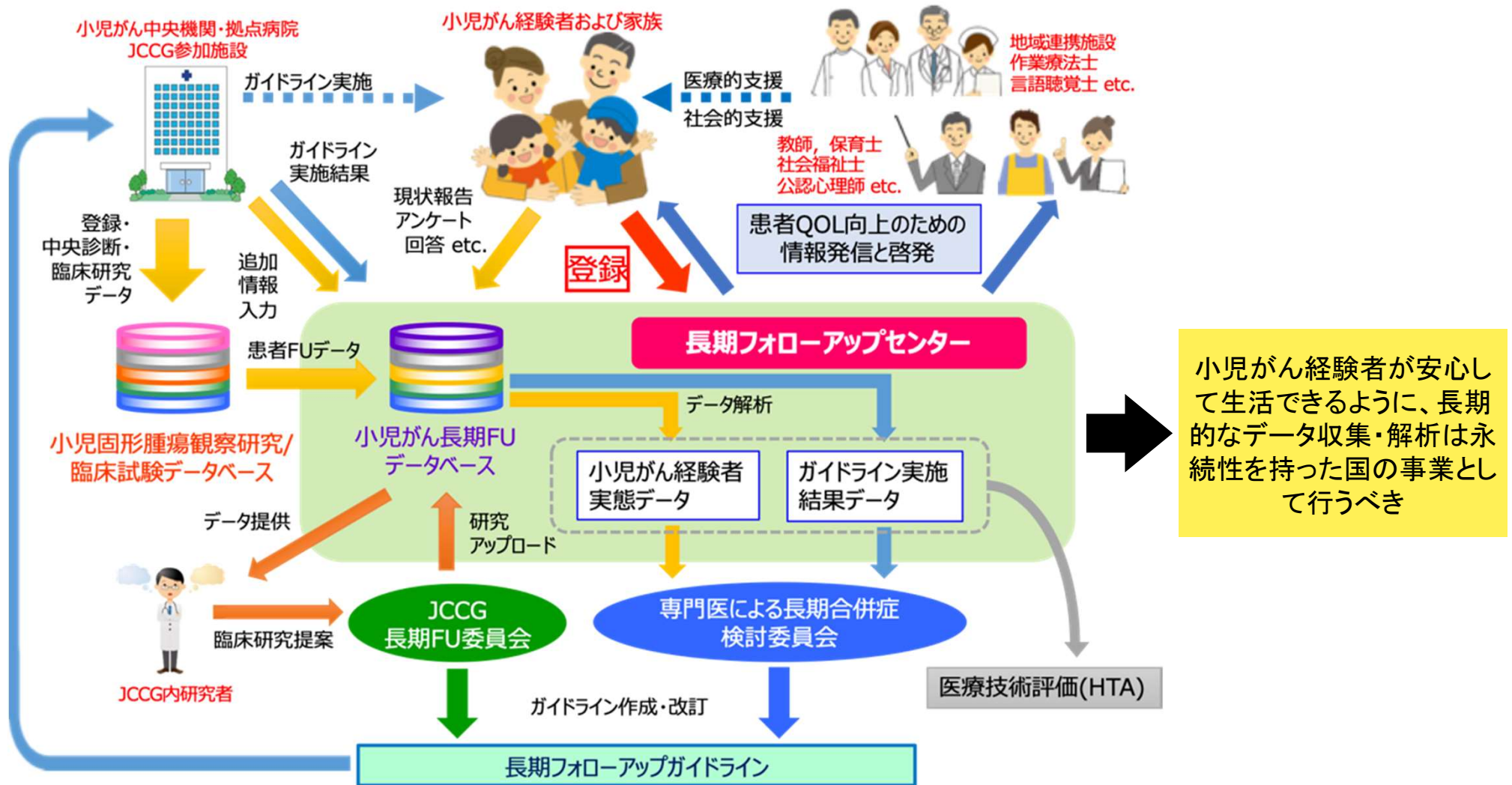
The Surveillance, Epidemiology, and End Results (SEER) Program provides information on cancer statistics in an effort to reduce the cancer burden among the U.S. population. SEER is supported by the Surveillance Research Program (SRP) in NCI's Division of Cancer Control and Population Sciences (DCCPS).

ガイドラインも充実





# 全国規模で前向きの情報収集・発信を行う 長期フォローアップセンターのインフラ整備が必要



厚労科研：小児がん拠点病院等及び成人診療科との連携による長期フォローアップ体制の構築のための研究（長期IFU松本班）2020 研究計画書より

# NCCHDライフタイムコホート



共通質問紙は自記式調査で、全188項目で構成され、就学・就業を含めたライフスタイル、既往歴、治療歴、現在の健康状態、晩期合併症症状、心理面等を聞いている。2020年現在、350名のコホートを形成。

対象者IDシール貼付

新規 (BL) 版

## 小児血液・腫瘍疾患の 長期フォローアップについての質問紙 (NCCHD Lifetime Cohort)

2019年5月

国立成育医療研究センターでは、血液疾患（けつえきしゃっかん）もしくは腫瘍疾患（しゅようしゃっかん）治療後の生活実態を把握するための質問紙調査を計画いたしました。

この質問紙調査は、以前、血液疾患もしくは腫瘍疾患と診断された方々にご依頼しています。ご回答結果は、匿名化して数値データのみを用い、「OOという回答が△△%」というように全て統計的数字とまとめます。

質問項目の中には、病院でわかる医療情報に関するものがありますが、あなたの病気や治療に対する理解の度合いも参考といたしてお聞きします。質問項目がたくさんありお手数をおかけしますが、趣旨をご理解いただきまして、是非ともご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

なお、次回から年一回お送りする「フォローアップ版質問紙」は、質問項目の数を減らしたのになっておりますので、引き続きご協力の程お願ひいたします。

### ご回答を お願いしたい方

宛名のお子さまが16歳未満の場合、原則として保護者さまがご記入ください。  
宛名のお子さまが16歳以上の場合、原則としてご本人さまがご記入ください。

### ご返送方法

記入済質問紙調査票は、同封の返信封筒にてご返送ください。  
※質問紙調査票到着後、2週間以内程度でご返送ください。

【研究主体】 国立成育医療研究センター

研究代表者: 松本公一  
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1  
TEL: 03-3416-0181 <https://www.ncchd.go.jp/>

### ● ご回答にあたってのお願い ●

- D この質問紙では、ご依頼時の封書の宛名の方の健康状態や生活のことについてお尋ねしております。原則として16歳以上の場合、ご本人さまにご回答をお願いします。16歳未満の場合は保護者さまにご回答をお願いいたします。
- D 質問紙へのご協力は任意です。差し支えない範囲で、できる限りご回答いただけましたら幸いです。
- D (1つだけ、いくつでも) といった各設問の記載に従い、ご回答ください。
- D 黒または青等の筆記具ではっきりとご記入ください。

### 健康診断についてお尋ねします

問24-1 あなた(保護者の場合はあなたのお子さま)は、現在、もともと病気のフォローアップを定期的に受けていますか。(1つだけ)

- 1 はい 2 時々 3 わからない

【1 はいとお答えの方】

問24-2 通院先について、以下の中からあてはまるものすべてお答えください。(いくつでも)

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1 成育          | 4 開業医 |
| 2 成育以外の病院の小児科 | 5 その他 |
| 3 成人病院の内科・専門家 | ( )   |

問25 あなた(保護者の場合はあなたのお子さま)が、病気の定期受診以外に学校あるいは職場などで健康診断を最後に受けたのはいつですか。(1つだけ)

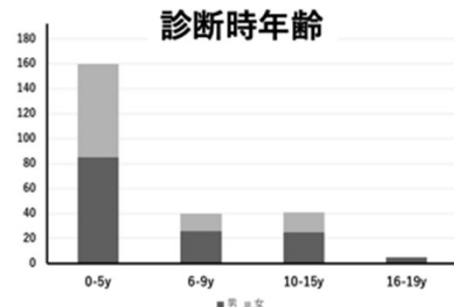
- |                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| 1 病気の定期受診以外で健康診断を受けたことはない | 4 過去1-2年以内に行った   |
| 2 過去5年以上前に受けた             | 5 過去1年以内に行った     |
| 3 過去3-5年以内に行った            | 6 受けたが、いつか覚えていない |
|                           | 7 受けたかどうか覚えていない  |

問26 あなた(保護者の場合はあなたのお子さま)が骨密度や骨の強度の検査(DEXA、超音波、CTスキャン)を最後に受けたのはいつですか。(1つだけ)

- |                        |                  |
|------------------------|------------------|
| 1 骨密度や骨の強度の検査を受けたことはない | 4 過去1-2年以内に行った   |
| 2 過去5年以上前に受けた          | 5 過去1年以内に行った     |
| 3 過去3-5年以内に行った         | 6 受けたが、いつか覚えていない |
|                        | 7 受けたかどうか覚えていない  |

問27 あなた(保護者の場合はあなたのお子さま)が最後に産医に行ったのはいつですか。(1つだけ)

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1 産医に行ったことはない  | 4 過去1-2年以内に行った   |
| 2 過去5年以上前に行った  | 5 過去1年以内に行った     |
| 3 過去3-5年以内に行った | 6 行ったが、いつか覚えていない |
|                | 7 行ったかどうか覚えていない  |



**NCCHD Lifetime Cohort News Letter vol.1**  
2019.5.15 発行

**ごあいさつ**  
国立成育医療研究センター 小児がんセンター センター長 松本公一  
NCCHDライフタイムコホートにご協力いただき、ありがとうございます。  
小児がんは80%の後遺症が期待できる疾患になってきましたが、後遺症にどのような状態で進歩されていて、どのような病気が発症しているかは、まだよくわかっていません。そこで、成育医療研究センター (NCCHD) で治療されたみなさんへ、定期的にフォローアップしていきという試みが「NCCHDライフタイムコホート」です。  
みなさんからいただいた貴重な情報。これからは病状も変化することで、全身の小児がん治療の質をより高いレベルに引き上げることができると思い、私自身、小児がん治療の質をより高めるために、より良い研究を行いたいと考えております。  
今後とも、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

**松本センター長**

**INFORMATION**  
皆さん「小児がん医療相談ホットライン」をご存知でしょうか。国立成育医療研究センター小児がんセンターでは、小児がんの患者さんやご家族からの医療内容に関する相談を随時受け付けています。お気軽にご相談ください。  
詳しい情報は伊からご覧いただけます <https://www.ncchd.go.jp/hospita/soou/section/cancer/hotline.htm>

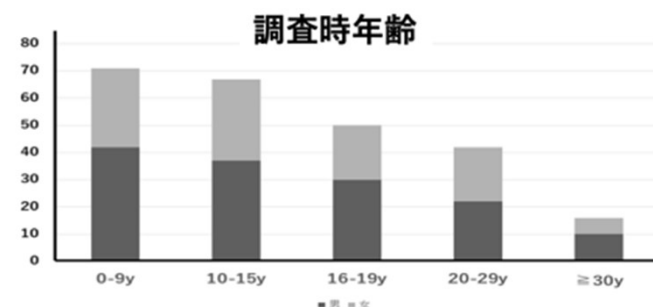
**NCCHD ライフタイムコホート質問紙 集計**  
2018年5月-10月に集計にご協力いただきました質問紙調査について、集計結果の概要をご紹介します。  
● 回答者数 158名  
● 調査票の記入率 本人: 56名 (35.4%) 保護者: 97名 (61.4%)  
無回答: 5名 (3.2%)

**Q. 対象者の年齢**  
0-5y: 30%  
6-9y: 30%  
10-15y: 20%  
16-19y: 10%  
平均: 14.5歳

**Q. 病気の種類**  
白血病: 70%  
脳腫瘍: 10%  
骨髄腫瘍: 20%  
その他: 0%

**Q. 入院治療終了からの期間**  
2年以上経過: 77%  
2年未満: 23%

発行/ 国立成育医療研究センター小児がんセンター NCCHD Lifetimeコホート  
TEL: 03-3416-0181 (内線)



# 小児のドラッグ・ラグは深刻である

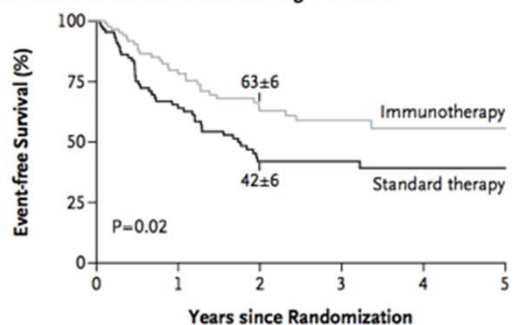
小児用法・用量が承認された抗悪性腫瘍薬は225件中18件 (2010-2018年度)しかない

## 小児用法・用量が承認された抗悪性腫瘍薬 (2018年度)

承認年度	販売名	承認形態等	効能・効果
2018	ビーリンサイト	新有効成分	再発又は難治性のB細胞性急性リンパ性白血病
2018	テモダール*1	新効能・新用量	再発又は難治性のユーイング肉腫
2018	リサイオ	新有効成分	小児悪性固形腫瘍における自家造血幹細胞移植の前治療
2018	エトポシド*		腫瘍特異的T細胞輸注療法の前処置
2018	フルダビンリン酸エステル*		※再生医療製品「チサゲンレクルユーセル (販売名: キムリア点滴静注)」(効能、効果又は性能: 再発又は難治性のCD19陽性のB細胞性急性リンパ芽球性白血病)に伴い承認
2018	シタラビン*		
2018	シクロホスファミド水和物*		

## 神経芽腫に対する GD2抗体

C Event-free Survival for ≥1-Yr-Olds with Stage 4 Disease

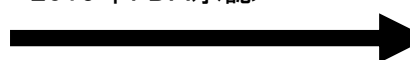


No. at Risk	0	1	2	3	4	5
Immunotherapy	89	56	37	22	11	7
Standard therapy	90	46	26	19	10	8

第一世代



2015年FDA承認



**DANYELZA™**  
naxitamab 40mg/10mL INJECTION

第三世代

2017年EMA承認

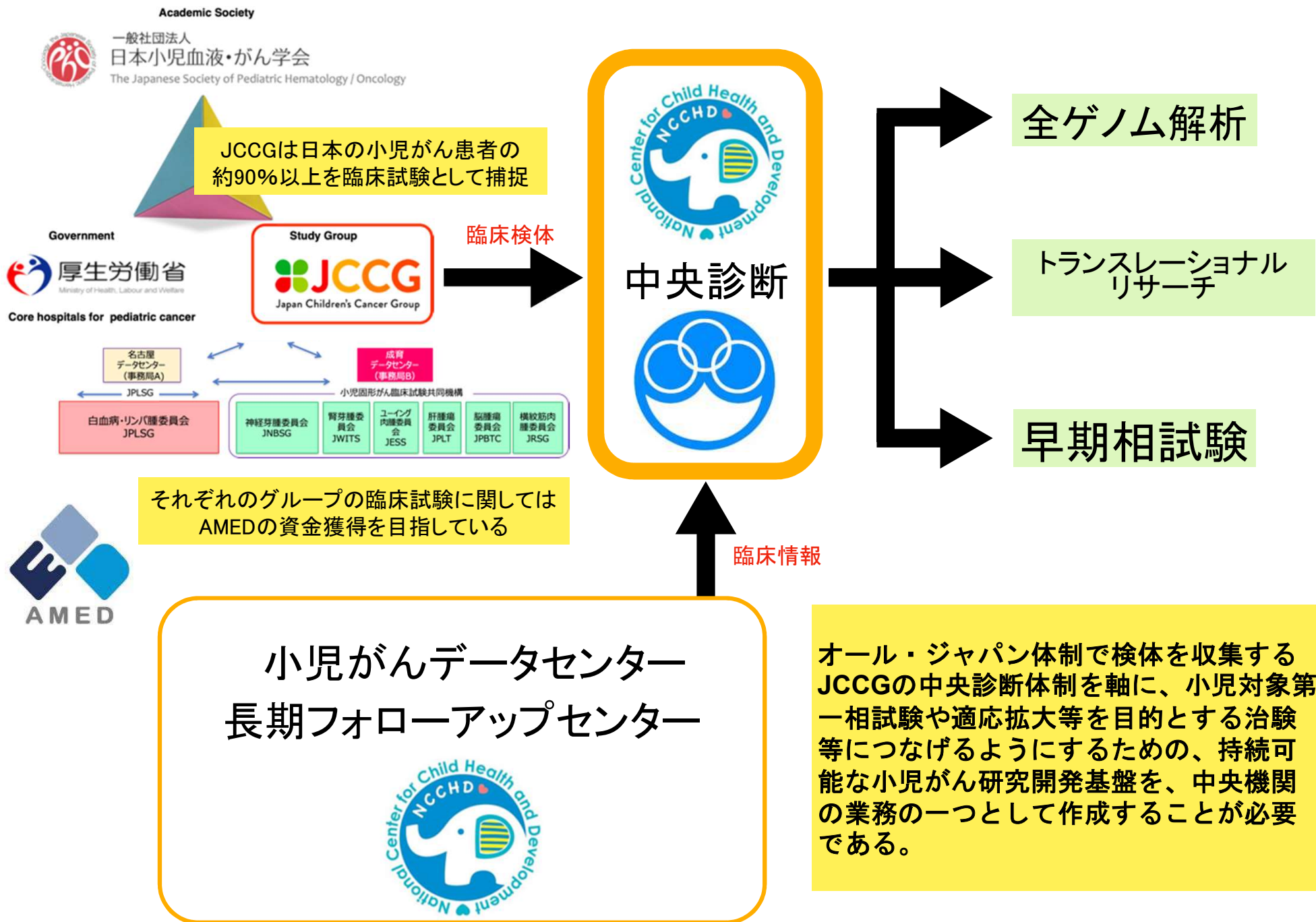


2021年PMDA承認(予定)





# 持続可能な小児がん研究開発基盤を作ることが急務



# 成育と国がんの連携による小児がん研究開発基盤

## NCCHD

「小児の成長・発達を踏まえた成育医療の一環として小児がんの高度かつ包括的な医療を行う」

- 小児の各領域の専門診療科と協働し**総合的な高度医療ケア**を行う。
  - 小児がんは進行が速く、他臓器への影響が多い。小児脳腫瘍摘出術、集中治療や同種造血幹細胞移植など、疾患の難治性と全身にわたる合併症の両方に対応できる体制をとり、小児診療の総合力が必要な患者の診療を行うことができ、**多様な合併症を併発した小児がん患者にも対応が可能**である。

- **小児がんの中央診断(病理診断・免疫診断・画像診断)の中核**となり、NCCと連携しつつ全国の診療の均てん化、臨床研究の質の保証に貢献する。
- がんの発症病態を、成育の過程である小児に発症する疾患としてとらえ、発生分化や免疫構築の観点からも基礎研究を行う。

## NCC

「小児がんを含めた希少がん・難治性がんに高度な医療を行う」

- 成人がんの各領域の専門診療科と協働し**がん**に特化した**技術を活用した高度医療**を行う。
  - 治癒切除や機能温存、再建に専門的な技術を要する骨軟部腫瘍、血管内治療等を要する網膜芽腫、小児期には希な「成人型のがん」などの診療を行う。
  - 標準治療のない難治・再発の全小児がんに対し開発中のものも含む治療提供を行う。

- ゲノム医療の中核として、NCCHDと連携しつつ中央診断検体による小児がん領域における全国規模の**ゲノム医療導入を支援**する。
- 成人がんでの経験やインフラを活用し、小児がんの病態解明や**早期相試験・治験の推進**と調整を行う。

いずれの役割もNCCHDだけ(NCCだけ)で担うものではなく、NCCHDとNCCが緊密な連携のもと小児がん医療の向上を牽引することが重要である。

72